



〔海の状況 (7/16~8/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて概ね神子平年よりはなはだ高め (平年差 1.5℃~) で推移した。(図1)
 ※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて平年並み (±0.5℃) からかなり高め (平年差 1.0℃~1.5℃) で推移した。(図2)

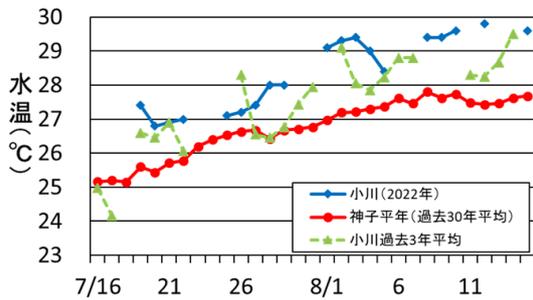


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

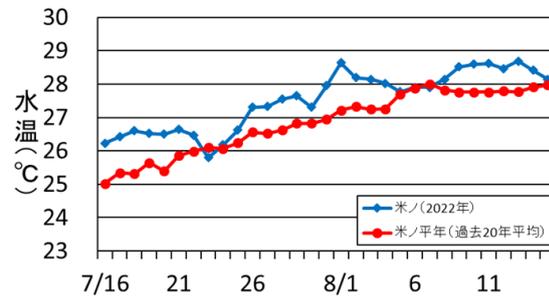


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2019年~2021年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

〔若狭湾および周辺海域の海況：7月〕

7月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0m)では、若狭湾沖で24℃~26℃の範囲が大きくなっていた。水深50mでは、若狭湾沿岸で20℃~22℃の範囲が大きくなっていた。水深100mでは、若狭湾沿岸で16℃~18℃の範囲が小さくなっていた。水深200mでは、若狭湾沖で6℃以下の範囲が小さくなっていた。(図3)

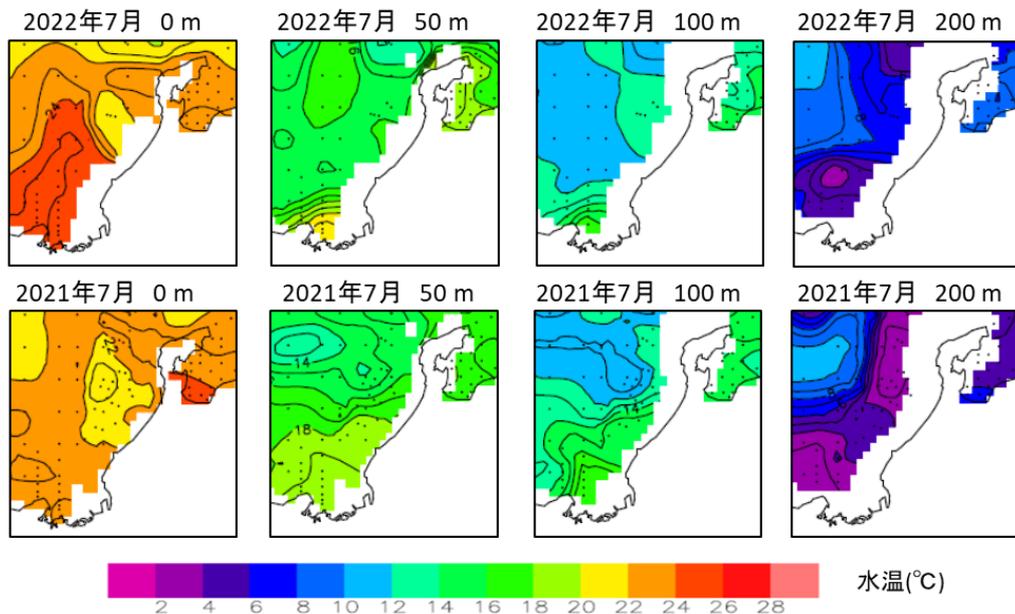


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

大型クラゲ情報

8月7日～14日にかけて島根県隠岐郡隠岐の島町の定置網で3個体（傘径40～100cm）の入網が確認されています。8月12日に京都府与謝郡伊根町の定置網で1個体（傘径50cm以下）、8月16日に京都府京丹后市久美浜町の定置網で1個体（傘径50cm以下）の入網が確認されています。今後、福井県内でも確認される可能性がありますのでご注意ください。
 （漁場環境グループ 岩崎 俊祐）

〔県内の漁模様：7月〕

2022年7月の県内の総漁獲量は379tで、前年同月を143t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は137tで、前年同月を96t下回った。マグロ類、ブリ銘柄、ワラサ銘柄はやや上回ったが、サワラ、ケンサキイカは大きく下回り、アジ類、ハマチ銘柄、シイラは下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は21tで、前年同月を2t上回った。アカエビが上回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は221tで、前年同月を49t下回った。アマダイ、スルメイカが下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(7月)

定置網 (kg)						底びき網 (kg)					
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
アジ類	12,974	17,912	21,066	-4,938	-8,092	ハタハタ	115	747	410	-632	-295
サバ類	6,901	7,496	5,018	-594	1,883	アカエビ	20,899	18,162	26,319	2,737	-5,420
マグロ類	4,666	1,954	2,322	2,712	2,343	その他エビ	148	105	131	43	17
カジキ類	1,002	423	2,489	579	-1,487	その他	87	559	490	-472	-403
カツオ類	1,160	2,222	1,105	-1,062	55	合計	21,249	19,573	27,349	1,676	-6,101
ブリ 銘柄計	14,424	15,372	50,189	-948	-35,765	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(ブリ)	3,073	448	1,422	2,625	1,651	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
(ワラサ)	2,327	323	2,270	2,004	57	タイ類	5,431	3,984	4,892	1,447	540
(ハマチ)	4,647	9,634	27,740	-4,987	-23,094	(キダイ)	5,032	3,357	3,712	1,674	1,319
(ツバス)	4,068	4,652	18,371	-584	-14,303	アマダイ	3,991	8,124	8,195	-4,133	-4,203
(アオコ)	309	314	386	-5	-77	スズキ	654	1,201	3,551	-547	-2,897
ヒラマサ	1,188	1,401	3,784	-213	-2,596	メバル類	1,504	1,378	2,404	126	-900
シイラ	1,526	3,967	2,899	-2,440	-1,372	スルメイカ	70,746	104,464	34,169	-33,718	36,577
サワラ	55,793	118,380	100,029	-62,586	-44,235	タコ類	31,126	29,096	30,323	2,029	802
トビウオ	3,223	1,705	4,794	1,518	-1,571	その他	107,606	122,219	115,297	-14,613	-7,690
タイ類	5,564	5,836	7,326	-272	-1,762	合計	221,058	270,466	198,830	-49,408	22,229
スズキ	6,428	5,159	7,999	1,269	-1,571	全漁法 (kg)					
ヒラメ	2,067	1,214	1,800	853	267	魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
ケンサキイカ	11,527	34,924	22,445	-23,397	-10,918	合計	379,096	522,560	470,992	-143,464	-91,897
その他	8,347	14,557	11,549	-6,210	-3,203						
合計	136,789	232,520	244,813	-95,731	-108,024						

※1 平年の値は2012～2021年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：7月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：7月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：7月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：7月中旬～8月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サバ7.3t、マアジ2.8t、サワラ類2.8t、フクラギ・コゾクラ1.9t、シイラ1.1t

京都府…定置網…サバ類3.9t、サワラ類3.8t、カタクチイワシ2.8t、トビウオ類2.2t、マアジ1.7t

兵庫県…定置網…アジ292kg、トビウオ108kg、スズキ53kg、シロイカ40kg、マサバ15kg、ツバス6kg

鳥取県…まき網…ウルメイワシ24.5t、マイワシ19.5t、マサバ4.0t、ブリ類3.8t、マアジ1.3t

（漁場環境グループ 梶原 大郁）

ヒラメの放流効果調査と標識放流の実施について

標識放流魚を見かけましたら、水産試験場までご連絡をお願いします！

水産重要種であるヒラメは、資源量および漁獲量の増大を目的に日本各地で種苗放流が行われています。本県でも1984年から種苗放流が行われており、近年は毎年20万尾前後が放流されています。では、これら放流されたヒラメは、どのくらい漁獲されているのでしょうか。

水産試験場では、放流効果を把握するため市場調査とDNA分析を実施しています(図1)。市場調査では、国見、敦賀、高浜の3市場(図2)で水揚げされたヒラメの全長測定と無眼側体色黒化に基づく混入率の算出を行っています。DNA分析では、水揚げされた放流魚のDNAを調べ、栽培漁業センターの養成親魚と親子判別を行うことで、県内で放流されたものかどうかを調べています。その結果、昨年漁獲されたヒラメのうち放流魚は6.3%であり、放流魚の約70%は県内で放流されたものであると推定されました。

一方で、DNA分析では県内のどこで放流したヒラメなのかは分かりません。そこで、ヒラメの放流効果や放流後の移動をより細かく調査するため、漁業者の皆さんと協力して標識放流も実施しています。

今年8月4日に、河野漁港(図2)で尻鰭後部カットした標識魚(図3)を3,333尾放流しました。ヒラメが漁獲された場合には、無眼側の黒化の確認とあわせて、尻鰭の有無も確認していただき、発見の際はご連絡をお願いいたします。

また、水産試験場では以前に無眼側胸鰭抜去やアンカータグおよびパンチング標識(図3)による標識放流を行っており、他府県でもヒレの一部をカットしたものやタグを装着したヒラメの放流が行われています。

最後になりましたが、標識放流の実施にあたっては河野村漁協の皆様にご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

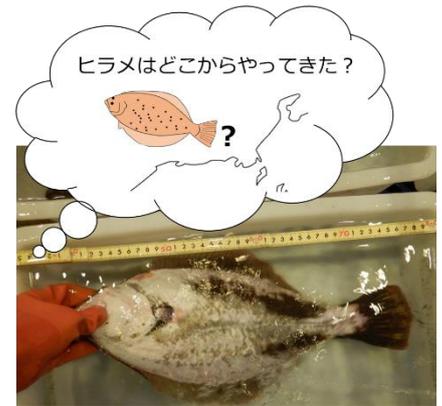


図1 市場調査の様子



図2 市場調査および標識放流の実施場所



図3 尻鰭をカットしたヒラメ(左)と胸鰭を抜去したヒラメ(中央)、アンカータグ(右上)、パンチング(右下)を施したヒラメ

(漁業管理グループ 前原 思惟)